

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|----------------------------|------------------|-------------|
| 事業所番号 | 4072200423 | | |
| 法人名 | 有限会社 ツーウェイ・ヒューマンゼーション | | |
| 事業所名 | グループホーム 和笑 | | |
| 所在地 | 〒838-0002 福岡県朝倉市長谷山393番地10 | Tel.0946-25-0377 | |
| 自己評価作成日 | 平成23年2月20日 | 評価結果確定日 | 平成23年03月30日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の生活歴・職歴・習慣等を活かした個別ケアが適切に行えるよう、個人情報の流出に留意しつつ、職員間での共有に努力している。また、自然に恵まれた環境を満喫すべく、四季の変化を感じ取るよう、出来る限り戸外へ散歩やドライブに赴いている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|----------------------|-------------------|--|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会 | | |
| 所在地 | 福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5-27 | Tel. 093-582-0294 | |
| 訪問調査日 | 平成23年3月7日 | | |

秋月城のめがね橋の、蛍が乱舞する清流近くに、デイサービス、宅老所併設のグループホーム「和笑」がある。施設長と管理者は、地域密着型介護サービスを目指し、職員と話し合い、利用者との和やかに笑い、同じ目線に立って、家族の一員として暮らすことを実践している。特に、食事風景は、楽しい雰囲気の中で、新鮮な食材を使った料理を、お代わりする利用者が多く、提携医の24時間往診体制の確立と合わせ、健康管理は万全である。また、職員がキャラバンメイトで活動したり、河川の清掃、保育園児との交流等、頼りになる「和笑」として、地域住民と交流の輪が広がっている。運営推進会議や家族会を開催し、様々な意見、要望、質問が出て、活発な交流の場として、出された課題を検討して、運営に反映出来るように努力し、今後が期待されるグループホーム「和笑」である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|----|--|--|----|---|--|
| 58 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない | 65 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができてい (参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 59 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 66 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 60 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 61 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 62 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 69 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 63 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 70 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 64 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-------------------|----|--|--|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I.理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | 1 | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 独自の理念を持ち、それに伴ったケアの継続に向けて、各自が理解し、日々の業務にあたっている | 利用者の心身機能が低下しても、地域と触れ合いながら、和やかで笑いのたえない家を、との思いの理念である。職員は、施設長や管理者の想いを共有し利用者の気持ちに寄り添い、和気あいあいとした雰囲気の中で常に笑顔で支援している。 | |
| 2 | 2 | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している | 最近では、地域の行事の一つである空き缶拾いや河川清掃への参加が出来ないでいるが、地域の一員としての貢献に努めたい | 近隣の方が、野菜や果物を届けたり、散歩や買い物等、日常的に地域の人々と触れ合う機会も多い。地域の行事に全員で参加することは少なくなっているが、小学生や保育園児との交流、ホームの催し時には地域の方に呼びかける等、地域との繋がりを大切にしたい取り組みをしている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 運営推進会議等でも、出来ることがあれば手伝わせていただきたいとの声かけはしているが、実際にはまだ手伝わったことはないが、キャラバンメイトの活動として、地域の方と認知症についてお話したことがある | | |
| 4 | 3 | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 報告をする中で、質問や相談を受けることがあるが、逆に困っていることはないか、協力してほしいことはないか、と言われ助言をいただいている | 家族会代表、区長、民生委員、各ブロックの老人会会長、市職員が参加し、2ヶ月毎に開催している。ホームの状況報告、メンバーから災害対策等の取り組みに対する提案等、助言を得ている。助言をもとにホーム運営に反映させたものも多い。 | |
| 5 | 4 | ○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 会議に参加された際に、地域の情報をいただいたりしている程度で、今後は積極的に協力関係を築いていきたいと思う | 運営推進会議のメンバーとして、市の担当職員が会議に参加し、意見交換や助言をしている。課題解決のため、市の担当窓口に出向いたり、地域包括支援センターに意見を求める等連携を密にしている。 | 地域の独居高齢者の見守りや、長年介護福祉の第一線で培った経験や知識を地域で活かすために、行政と協働して相談事業等、積極的に期待したい。 |
| 6 | 5 | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 常に、拘束のないケアを全職員で心がけている。玄関の施錠は夜間のみ行い、日中は戸の開閉時にチャイムがなるようにして、危険が無いよう配慮している | 利用者の自由な暮らしを制限することがないよう、玄関には鍵をかけず、隣接する宅老所やデイサービスとの連携を密にしている。職員は、利用者の外出傾向を把握し、さり気なく見守っている。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 身体的虐待はもちろんのこと、言葉における虐待にも見過ごされることがないように注意している | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 外部評価 | | |
|----|----|--|---|---|---|
| | | | 自己評価 実践状況 | 実践状況 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| 8 | 6 | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 成年後見制度については以前運営推進会議にて講師を招いて学んだが、まだまだ不十分 更に外部研修等を通じて学んでいきたい | 現在制度を活用している利用者はいないが、管理者は、権利擁護に関する学習の必要性について理解し、外部の講師を招いて研修の場を設けるなどの取り組みをしているが、職員が理解し活用できる体制までには至っていない。 | 制度に関する資料やパンフレットの整備と、外部研修への参加等、家族への説明が、いつでも必要な時に、活用出来るための支援体制を期待したい。 |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約時に読み合わせをしていく中で不安や質問等に答えたりし、理解を得ている | | |
| 10 | 7 | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 面会の折に近況報告を伝えたりする中で、意見や要望を話しやすいように、日頃からの信頼関係に努力をしている また、意見等は全職員の共有事となるよう申し送っている | 日頃から、家族が気軽に声をかけやすい雰囲気づくりに配慮し、家族の来訪時には利用者の様子を伝え、積極的に家族の意向を聴くようにしている。運営推進会議には家族会から代表が参加している。出された意見は検討し、介護サービスに反映出来るように努力している。 | |
| 11 | 8 | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 職員会議等でも訊いたりするが 仕事にもさり気ない気付きがあった時など話してくれおり、全体で話し合うべきことはまた、会議に持ち込んだりしている | 毎月の全体会議には、職員全員が参加し、意見交換し、ミーティングやカンファレンス等折に触れ話し合いの機会を設けている。勤務については、事前に希望を聴く等、職員の意見を大切に、運営に反映させるよう努めている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | やりがいや生きがいになってやる気につながれば、また利用者の安心した生活につながり、そうなればまた、働き甲斐のある楽しい職場となると信じて 少しずつではあるが、改善に努めている | | |
| 13 | 9 | ○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している | 給与に関しては有資格者制度を取り入れているが、それよりも受容の心があるか、思いやりや気配りの心があるか・・・が大切なことだと思っているので、その点では年齢も性別も関係ない | 職員の採用は年齢や性別などの制限はない。60歳の定年制は設けているが、半年毎の更新で働き続けることが出来る。ステップアップを目指す職員には勤務のローテーションも配慮し、資格取得後は資格手当を支給する等、働く意欲を引き出し、職員が生き生きと働ける体制が整えられている。 | |
| 14 | 10 | ○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる | 人権尊重の重要性に関しては十分理解を得ていると思っているが、学びの場としては改めて設けてはならず、個々で話す機会がある時に伝えているのみであり、もっときちんと伝えていく場の必要性を改めて思う | 利用者の人権や誇りを損なう事がないよう、優しく声かけをしたり、誇りや満足感を少しでも多く味わってもらえるように配慮した支援をしている。キャラバンメイトの活動で認知症の講義をする際も、必ず人権について触れている。 | |
| 15 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 就労間もない時には、業務を終えた後のレポート提出等で把握に努め、また、外部の研修へ参加し易いよう、勤務の変更等、考慮している | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 外部評価 | |
|------------------------------|----|--|--|---|
| | | | 自己評価 実践状況 | 実践状況 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 16 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | グループホーム部会に参加し、意見交換をしたり、それぞれの施設見学を合ったり、実際に見て、感じて学ぶことができるし、交流も深まり大いに役立っている | |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | |
| 17 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入浴時や散歩時、訪室時等に思いを傾聴・受容し、不安を解消していけるよう努めている | |
| 18 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 面会の折に近況報告を伝えたりする中で、意見や要望を話しやすいように、日頃からの信頼関係に努力をしている また、意見等は全職員の共有事となるよう申し送っている | |
| 19 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 会話する機会を大切にし、最善の支援が出来るよう努力している | |
| 20 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | お互いが共同しながら穏やかな生活が送れるように心掛けており、日常における生活の中で入居者の残存能力を発揮できるような支援をしている | |
| 21 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 家族との情報交換を行いながら、家族の思いや立場を理解・共有し、共に支えていく関係作りに努めている | |
| 22 | 11 | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 面会や電話での会話を楽しんでいただいたり、希望があればこちらからかけてみたり、ドライブで思い出の地に行ったりすることもある | 利用者が大切にしてきた馴染みの場所、思い出の場所や、人との関係が途切れることがないよう、支援をしている。「皆と一緒にではなく一人で行ってみたい」との利用者の意向にも可能な限り対応している。馴染みの人や家族が取れたての野菜を持ってホームを訪れることも多い。 |
| 23 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | その時の心身の状態や気分で雰囲気が変わったりすることもあるが、注意深く見守り、孤立しないように努めている | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 24 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 場合によっては退所された場合も、例えば病院にお見舞いに行ったり、家族の方の相談に応じたりしている | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 25 | 12 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 本人本位を第一に捉え、家族の方とも相談しながら出来るだけ意向に副えるよう努めている | 利用者の日々の行動や表情から、意向を把握するように努めている。言葉で表現することが苦手な利用者には、入浴時のリラックスした時に声をかけたり、利用者が楽しみにしていたり、興味を持っている事柄から話を始め、意向を把握する等、工夫した取り組みをしている。 | |
| 26 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入居時の聞き取りや面会時の対話などからも無理のない範囲で情報の収集に努めている | | |
| 27 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 施設での一日の流れの中にも、入居者一人ひとりの生活リズムがあることを理解し、その人らしい暮らしを否定しないよう努めている | | |
| 28 | 13 | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 会議において意見等を交わし、現状によっては家族の意見・了解を求め、より良いケアとなるよう努めている | 訪問時の家族の意向、運営推進会議での家族の要望、日々の関わりの中で把握した利用者の情報等を参考に話し合い、計画に反映させている。毎月モニタリングをし、利用者の現状に即した計画であるかを確認をしている。 | |
| 29 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 日々の生活や心身状況について個人記録に記入し、全職員が目を通しサインをできるようにしている | | |
| 30 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | その時のまわりの入居者の状況や職員状況にもよるが、即時対応できるよう努力している | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|----|---|---|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 31 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 地域の民生委員の方やボランティアの方の力を借りて、一緒に歌っていただいたり、散歩時に声を掛けていただくなど、普通の生活を豊かに楽しく送れるよう支援している | | |
| 32 | 14 | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 契約時に協力医療機関についての説明をし、理解を得た上でのことであることは勿論であるが、だからこそ更に日頃からの健康管理に努め、連携を図り、適切な医療が受けられるように支援している | 入居時に、24時間対応で緊急時は往診可能な協力医療機関の説明をしている。看護師の資格を持つ職員の健康管理や訪問診療、訪問マッサージ等、常に適切な医療、看護が受けられるよう体制を整えている。 | |
| 33 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 入居者の日頃の健康状態での心配な点や疑問に思うことなどを 直接尋ねる機会を常におき、場合によってはすぐに受診したりして速やかに対応している | | |
| 34 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 面会に赴き、馴染みの顔を見ることによって安心していただけるよう、また、病院関係者との情報を得ることによって出来るだけの対応を心掛けている | | |
| 35 | 15 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 今は、病気等が発覚し現実を見据えたときに話し合いをし、こちらの出来ることを伝え、家族の意向を確認しながら、協力医を交えて対応している | 24時間対応可能な協力医療機関と緊密な連携を図り、家族の希望で看取りを実施したこともあるが、限られた人員と設備の中で困難なことも多い。なるべく家族の意向に沿えるようその都度、ホームで出来る範囲を伝え、関係者とも話し合いながら対応している。 | 利用者が重度化した場合の対応は、利用者、家族にとっては大きな関心事と共に不安の要因でもある。早い段階からホームで出来ること、医療機関での対応が望ましいことの見極めをし、文書化し、家族に説明し同意を得ておく取り組みが望まれる。 |
| 36 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 以前、消防署より指導を受けたが、受けていない職員もあり、マニュアルだけでなく、全員が迅速に正しく対応できるようにしたい | | |
| 37 | 16 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 避難訓練は夜間の想定であっても昼間にしたりしているが、他の災害をも想定しての訓練も必要だと実感しているし、地域の方の協力をスムーズに無駄にしない為にも合同で実施したいと思う | 夜間を想定した避難訓練を年2回実施している。隣接して宅老所、デイサービスセンター、施設長の自宅があり非常災害時の協力体制も整えられている。運営推進会議等で地域の人の協力の申し出もあるが、「地域の人に負担をかけるのでは」との思いもあり一緒に訓練をするまでには至っていない。 | 非常災害時は想定外のことも起こりうる。運営推進会議やホームの行事と一緒に訓練を計画するなど、住民が参加しやすい状況をつくり、住民の協力を得ての避難訓練も期待したい。また、非常食の備蓄も望まれる。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|----|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 38 | 17 | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 一人ひとりに応じた言葉掛けや対応を心がけ、個人情報に配慮し、資料等の保管には十分注意している | 利用者の自己決定を優先し、さり気なく寄り添いながら支援している。「利用者に教わること、救われることもある」と、職員は、人生の先輩である利用者を敬い、誇りを損なうことがないよう支援している。個人の情報に関する守秘義務についても理解し対応している。 | |
| 39 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 利用者の表情観察を行い意思の把握に努め、声かけや問いかけをして支援している | | |
| 40 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 一日の大まかな流れは決まっているが、入居者の状況や意向に沿って、臨機応変に支援している | | |
| 41 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 趣味や趣向を取り入れつつも、季節感や室外温にあった着用となるよう、また自分の意思が反映されたものと思われるよう、支援している | | |
| 42 | 18 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 高級なものではなくても季節感のある新鮮な素材を用いて、盛り付け等を工夫し、必要な場合は刻み食にて対応したり、調理の段階では出来ることを手伝っていただいている | 利用者の希望を取り入れた献立の作成から、食材の調達、調理等一連の過程を職員が輪番制で実施している。調理や後片付け等利用者も一緒にしている。食事を楽しむ為に季節の食材を新鮮なうちに調理し、彩りや盛り付けにも工夫をし、職員も一緒に食卓を囲み、会話を楽しみながら食事している。 | |
| 43 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 水分補給としては、食事以外に10時と15時、入浴後、他には、温度に応じて行っている | | |
| 44 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後に声かけをし、出来るだけ自分で歯磨きやうがいをしていただき、必要に応じて一部介助、全介助をしている また、義歯洗浄剤の使用は週に2回、火曜と金曜日に実施している | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|----|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 45 | 19 | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 一人ひとりの排泄パターンを把握し、感覚を考慮した誘導を行い、出来るだけ、布パンツへの移行を図っている | 利用者一人ひとりの排泄パターンや、気配を把握しさり気なく誘導し、トイレでの排泄を大切に支援している。紙おむつ使用からトイレでの排泄に変わった利用者も数名いて排泄の自立に向けた取り組みの成果が現れている。 | |
| 46 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 食材に繊維の多いものを使用することは勿論であるが水分不足にも留意し、レクリエーションや体操・散歩等で予防に努めている | | |
| 47 | 20 | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | プライバシーを配慮し、1対1で対応しており異性による介助拒否があれば無理せず対応し、入浴順に対しても出来るだけ答ええている | 座って肩までゆっくり入れるやや深めの浴槽は二人一緒に楽しみながらの入浴も可能である。利用者の希望に応じ毎日の入浴にも対応している。入浴を拒否している利用者には「脱衣所で話を聴きたい」等さり気なく浴室まで誘導し、無理強いすることなく入浴に至るよう工夫している。 | |
| 48 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 睡眠パターンを把握し、またその日の状況に応じて安眠の提供となるよう支援している | | |
| 49 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | どのような効用があるかなどの十分な理解まではできていないが、時間や対象者に間違いはないかなどの十分な確認はしている | | |
| 50 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 家事等を手伝っていただいているが、楽しんでされているか・義務的な役割とだけになってはいないか難しく思う料理に関しては洗う人、皮を剥く人、切る人、配膳する人、食前後の挨拶を担当する人など自然と役割ができています | | |
| 51 | 21 | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 入居者の希望を取り入れながら、天気の良い日は散歩やドライブに出かけ、行き先も希望に沿った場所であったり、こちらから提案したところであったりしますが、手作り弁当を持参したり、外食したりしてみんなで楽しんでいる | 山や川が近くにあり、夏は蛍が飛び交う自然豊かな環境に恵まれたホームは、どこも散歩コースになり、天気の良い日は皆で散歩を楽しんでいる。花見や紅葉見物、遺跡見物など利用者の意向を大切に外出の機会を多く計画し実施している。個別の外出もなるべく利用者の意向に沿うよう配慮し、支援している。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 52 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 現在ではお金の管理が困難にな人が多く、おやつ程度の買い物希望の場合は立替をして対応し、それ以外は家族の了解を得てからの立替か、準備してもらっている | | |
| 53 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 必要に応じて対応している | | |
| 54 | 22 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 散歩時に見つけた草花をリビングや居室に飾ったりして四季を感じ取ったり、トイレの排泄臭による不快感が、また温度や湿度による不快感が生じないように見廻りや計測に注意している | 民家を思わせる造りのいたるところに季節の花が活けられ、優しい香りがただよっている。居間兼食堂の一角には量が敷かれ思い思いの時間を過ごす事が出来る。壁には季節感を取り入れた飾り付けや楽しそうな利用者の写真が飾られ、家庭的な雰囲気の中で、利用者とスタッフの楽しそうな笑い声が聞こえてくる。 | |
| 55 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | リビング以外でも腰掛けて外を眺めながら会話を楽しんだり、出来るよう玄関にベンチを設けてみたり、居室で一人読書をしたりする時間を妨害せぬよう見守っている | | |
| 56 | 23 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 居室は基本的には家具にしても、衣類にしても使い慣れた馴染みのものを持ち込んでいただいて、違和感なく過ごしていただいている | 居室のドアには、それぞれ工夫された名札や利用者の好みの飾り物が掛けられている。使い慣れた家具や馴染みの品が置かれた部屋で読書を楽しんだり、自由な時間を満喫している利用者もいる。職員は今までの生活習慣が継続できるよう配慮しながら支援している。 | |
| 57 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 出来ることはなるべくしていただき、出来ないことは援助をするにしてもまだできる、という達成感を味わってもらえるよう声かけに留意しており、だんだんとわかってきたことがわかりづらくなってきたら、どうしたらわかっていただけるか、間違えないですむかを考慮している | | |